

# E B M 実 習

【単位数：0.5単位，授業15コマ】

## 1 科目責任者

菱田朝陽 教授(公衆衛生学)

科目担当者

林 櫻松 教授(特任)(公衆衛生学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(Ⅲ-10-b)

- ① コンピテンス「医学知識と科学的探求心」のうち“医療における客観的根拠を適切に探索し，EBMを実施できる”を目標とする。
- ② EBM(科学的根拠に基づく医学)とは，臨床研究などによるエビデンス，医療者の専門性・経験と患者の価値観の3要素を統合し，より良い患者ケアのための意思決定を行うものである。EBM実習では，EBMを実践するために必要な臨床疫学の基本的な知識を身に着けるとともに，卒業後医師として患者に最適な医療を行えるようになるために，EBMの考え方とプロセスを理解し，実践もできることを目指す。

### (2) 学修目標

- ① EBM，臨床疫学の概念と定義について説明できる。
- ② EBM実践のためのステップを説明できる。
- ③ 临床上，生じた疑問を定式化することができる。
- ④ 定式化した疑問から，文献検索を行うことができる。
- ⑤ 臨床研究デザインの種類，それぞれの長所と短所について説明できる。
- ⑥ 論文の批判的吟味を行う際のプロセスを説明できる。
- ⑦ 疾病の経過を定量的に解釈するために，リスクと予後の臨床疫学的概念について説明できる。
- ⑧ リスクの概念と，臨床の場でその概念を理解していることの重要性について説明できる。
- ⑨ 診断，治療，予後に関する論文を批判的に吟味できる。
- ⑩ システマティックレビューとメタアナリシスについて説明できる。
- ⑪ 統計学的有意差と臨床的意義について説明できる。
- ⑫ 臨床試験の概念を説明できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	80%	AIDLE-Kを通じてレポートを提出する。
その他	○	20%	各グループの発表内容を評価する。

出席：実習を修得するためには，欠席をしてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

レポート、その他の合計が60%未満の場合は、レポートの再提出を求める。また、レポートが合格基準(60点)に達しない場合は、修正・再提出を求める。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

レポートについての総括をAIDLE-Kに掲示する。  
不合格の者に理解が不十分な項目について再確認を促す。

## 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

## 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
公衆衛生が見える 2025-2026	医学情報 科学研究所 編	メディカルメ ディア	EBMの概要が分かりやすい。
Clinical Epidemiology the essentials sixth edition	Grant S. Fletcher	Wolters Kluwer	臨床疫学を系統的に学べる教材として 適切。

## 6 準備学習(予習・復習)

参考図書のEBMの概要や実習関連資料を読んで実習に臨むこと(1日あたり1時間)。

## 7 授業計画

### (1) 講義の方法

症例シナリオを用いて、実習形式でEBMを実践する。実習中、個人ワークとグループワークの両方を取り入れ、特に患者への適用及びStep1-Step4の振り返りについては、小グループ討論やロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを導入する。

### (2) 講義の内容

1コマ目は、実施手順(Step1-Step4)、到達ゴールと提出課題を説明する。1コマ目の後半から、実習形式で症例シナリオについて、臨床上の疑問を設定し、文献検索を行い、論文の批判的吟味を行う。最後の2コマは、実施手順Step1-Step4を振りかえる。